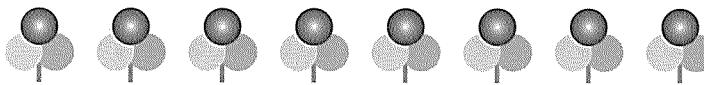


特定非営利活動法人

島根県介護支援専門員協会

会報



vol. 22

発行日 平成 29 年 9 月 25 日

発行者 特定非営利活動法人

島根県介護支援専門員協会

住 所 島根県松江市白潟本町 43 番地

スティックビル 3 階

電話・FAX 0852-60-5389

Mail shimane-caremane@knh.biglobe.ne.jp

第 15 回島根県ケアマネジャー研究大会； 日本介護支援専門員協会中国ブロック研修会

抄録募集について（中間報告）

島根県介護支援専門員協会では、「今こそ高めようケアマネジメントの質！～取り組もう事例研究～」というテーマで開催される今年度の研究大会に向けて、会員に広く研究発表を公募しました。

8月末の締め切りに対し、今回 3 例の応募があ

りました。

厳正なる審査の結果、この 3 発表については、すべて研究大会で発表していただくこととなりましたので、お知らせいたします。

平成 29 年度会員研究活動への助成事業について（報告）

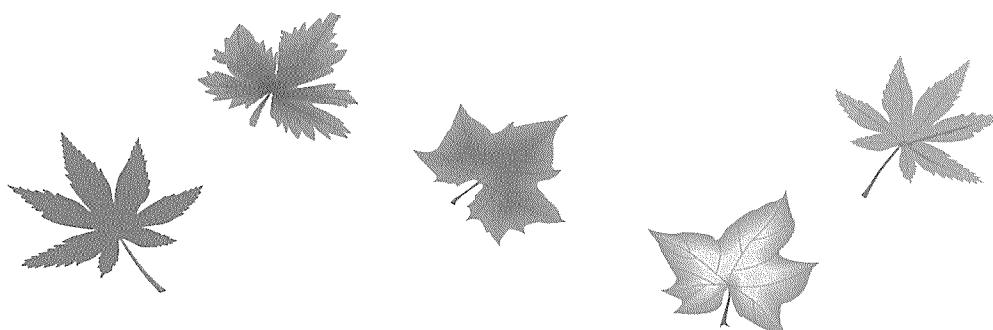
島根県介護支援専門員協会では、特定非営利活動法人として、島根県をフィールドに地域課題の抽出や地域の在り方の検証、住民のアドボカシーを踏まえた必要な提言等を行っています。その一環として、地域や社会、ケアマネジメントを行っているクライアントを対象とした、会員の企画に

よる調査研究活動への助成を公募しました。

8月末の締め切りに対し、今回 1 調査研究事業の応募がありました。

厳正なる審査の結果、この 1 調査研究事業については、助成が決定いたしましたので、お知らせいたします。

報告者：島根県介護支援専門員協会 理事長 藤原伸二



第11回 日本介護支援専門員協会 全国大会 in 金沢へ参加して

島根県介護支援専門員協会 副理事長 石 飛 智 朗

去る8月26日～27日 石川県金沢市で開催された「第11回 日本介護支援専門員協会 全国大会 in 石川」へ参加してきました。「地域・かがやき・暮らし」～今、介護支援専門員に求められている役割を果たす～をテーマに、全国からの約1000人の参加者とともに、2日間学んできました。

1日目は開会式の後、日本介護支援専門員協会会长の柴口氏より協会の活動報告、厚生労働省援護局 振興課長 辻山氏より「介護保険制度をめぐる状況とケアマネジャーへの期待」と題して基調講演が、そのうちに分科会に分かれての研究発表がありました。2日目は大会テーマでもある「地域・かがやき・暮らし」をテーマにシンポジウムを、最後に「人が動き まちが動く」～過疎集落からの脱却！！～と題し、総務省地域力創造アドバイザー 高野誠鮮氏より記念講演がありました。

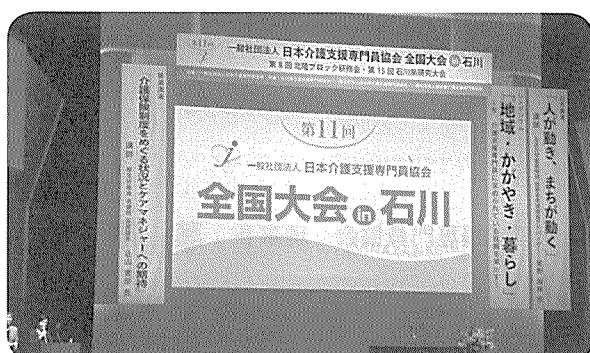
学びの多い2日間でしたが、その中でも印象に残ったのは、「人材育成とマネジメント力の向上」をテーマにした分科会で、発表のほとんどが事例

研究を通してのケアマネ同士での勉強会を活用した内容だったことです。島根県協会においても昨年より事例検討会の重要性を伝える機会を作り、圏域協会ごとの取り組みが多くなってきています。全国的な取り組みに、事例検討会の持つケアマネに必要な力をつける力を再認識しました。また、記念講演では「失敗をしない人はいない、失敗を沢山した人が成功を生む」と、自らが失敗を恐れず行動することの大切さを学びました。地域包括ケアに向けた取り組みが進む中、一人の介護支援専門員の行動からも大きく物事が動くこともあります。

大会のサブタイトルである、介護支援専門員に求められる役割を、職場や地域又協会活動でも意識しながら行動していきたいと思える大会でした。

～金沢観光～

1日目の研修スタートが午後からでしたので、午前中の時間を使って、日本三大名庭の一つ「兼六園」と「金沢城跡」へ出かけてきました。流石、加賀百万石！と思わせる素敵な場所でした。島根から出かけるには不便な場所にあり、これまで行く機会のなかった石川県。皆さんも様々な団体で行われる全国大会などをきっかけに、これまで足を運んだことのない土地へ、出かけられてみてはいかがでしょうか。



～日本介護支援専門員協会 Facebook ページ～

アクセス方法

日本介護支援専門員協会ホームページ→Facebookページのバナーをクリック

アドレス <https://www.facebook.com/caremanager.japan/>

日本協会では、介護支援専門員に関するを中心に行事や研修会の情報をいち早くお伝えすることを目的に、Facebookページを開設しています。日本協会の活動を理解していただくためにも是非ご覧ください。

平成 29 年度 介護支援専門員試験合格対策講座を終えて

島根県介護支援専門員協会 理事・組織力強化 吉 村 真 治

去る 8 月 5 日・8 月 11 日、いきいきプラザ島根において、平成 29 年度介護支援専門員実務研修受講試験対策講座（ケアマネ試験合格対策講座）を受講者数：35 名（第一回）／受講者数：40 名（第二回）にて開催致しました。

昨年（第 19 回）介護支援専門員実務研修受講試験の全国データでは、受験者総数は 124,585 人（前年 134,539 人）、合格者数は 16,280 人で、合格率は 13.1%（前年 15.6%）という厳しい試験になりました。

それを受け、当協会では試験合格を全力サポートするため出題範囲となる「七訂 介護支援専門員基本テキスト」をもとに研修資料（オリジナルテキスト）を講師の宇山理事より作成いただき、過去問題より出題傾向を抑え、「介護支援分野」を中心に、試験合格に必要な「介護支援専門員としての知識および技能」を、試験学習の全体像を初めての方でも理解できるようにご説明いたしました。また、試験対策上確認しておくべき「介護保険と地域包括ケアシステム」および「ケアマネジメントに必要な医療的基礎知識」等についての最新情報を含めてご提供いたしました。

そして、本年度試験の出題予想に基づき、中央法規出版が実施する「ケアマネジャー試験統一模擬試験（全国統一模試）」を導入し、受講者の現段階での実力や苦手分野の把握、試験に向けての傾向と対策にお役立ていただくため、模擬試験終了後には、講師が解説や試験勉強のポイントについてアドバイスいたしました。

最終日の受講者アンケートには、「模擬テストなど、現在の理解度が分かり講座も実りある内容

でした。」、「一人で勉強するのに行き詰まっていたので、分かり易く順序を追って解説してもらえたのでとても参考になった。」等といった言葉が多くみられました。

◆これから試験制度改革について、現在、介護支援専門員実務研修受講試験の見直しが行われています。最初の見直しは、平成 27 年度に行われた免除科目の廃止です。そして、2 つ目の見直しは、昨年度から試験合格者を対象とする実務研修の見直しが行われました。この見直しは、①研修時間の見直しと、②研修内容の見直しの 2 つの内容を含んでいます。研修時間については、平成 28 年度からの実務研修では、87 時間に増えました。また、研修内容も、脳血管疾患、認知症、筋骨格系疾患及び廃用症候群など具体的な症例に関する支援のポイント等が追加されています。

そして、平成 30 年度から介護支援専門員試験の受験要件の見直しが行われます。同年度の試験からは、法定資格保有者及び相談援助業務従事者に限定されます。つまり、初任者研修等を修了して介護業務に 5 年間従事しただけでは試験を受けることができなくなります。法定資格については、その資格を取得後 5 年間、業務に従事することが要件となります。

介護支援専門員に関わらず、介護の資格は年々受験資格要件が厳しくなってきています。受験資格要件改正の経過措置である本年度試験を今回、受講された方々が合格され、研修終了後、資格を取得された暁には是非、当協会へ加入頂き、一緒に協会活動ができるることを心より願っております。

ケアマネとして防災対策について思う事

居宅介護支援センターさわらび 小谷 泰之

5月の県協会総会において、防災対策についてお話をすると機会を与えて頂きありがとうございました。

私は縁あって昨年、一昨年と日本協会の防災対策特別委員会に関わらせていただきました。

それまで私自身、災害に見舞われた経験がなく、その意識の低さを感じていました。本当の発災時は、連携が必要だと机上では理解していても実際どのように動いたらよいのか……

この度の県協会で行いました演習は、私自身の防災に対する意識が大きく変わった演習です。参加されました皆さんにとって少しでも今後の業務に役に立つ内容でありましたら幸いです。

先に述べましたように、私は災害経験がなく、大田市は島根においても災害の少ない地域と言われています。しかし過去においては、島根でも津

波、地震などにより大きな被害が記録されています。また近年、北海道や東北で台風被害、九州での大地震、あちらこちらでのゲリラ豪雨等々、どれも想定していた災害ではないと思います。それらを「想定外」で片づけてよいのか。今後少しは対策意識を持ち合わせておくことが、ケアマネジメントの業務の一つになっていると感じようになりました。

ケアマネ個人として・事業所として・地域としてそれぞれ災害に向き合う課題は違うと思いますが、ただ本気にならなければ何も先に進まないと感じています。

それが地域包括ケアシステムにも通じるところだと思います。



講師 小谷 泰之 氏

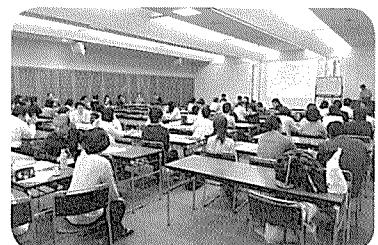
「どうする災害時、ケアマネに求められるもの」

松江地域介護支援専門員協会 西村典子

島根県介護支援専門員協会の今年度の総会研修にて、標題の研修を受けました。参加者は「行政」「地域包括」「通所施設」「入所施設」「訪問介護」「居宅支援」のグループにそれぞれ分かれて、震度6強の地震が起きた時、それぞれの立場でどのように考え、行動し、連携していくかという模擬演習をしました。

災害者支援は、「災害発生直後」の命を守ったり、二次被害を防いだりする段階から、「災害後2、3年」の復興期まで、「フェーズⅠ」～「フェーズⅣ」の4つの段階にわかれます。…災害者支援は、発生直後の一時的なものではなく、復興まで考える長期にわたったもので、その段階ごとに留意していくポイントがあることを知りました。

模擬演習では、災害発生から10時間「フェーズⅠ」と、発生から4日までの応急期「フェーズⅡ」を取り上げ、具体的な災害をイメージしながら、その時何をすべきか、周りに何を発信し、連携していくかを考えました。「ケアマネに求められるもの」という研修でしたが、ケアマネが所属しない立場からも災害を見ていくという演習を通して、「地域の中で」ケアマネ



が、どのように他機関と連携し、使命を果たすかということを考えさせられる研修となりました。

後日談…。総会研修から3ヶ月後、所属の職場の防災研修でこの研修を真似て、職場内の部署ごとでグループを作り、模擬演習を行いました。総会研修の目的の一つに「災害対策マニュアルの見直しに役立てる」とありましたが、模擬演習をすることで、所属部署それぞれの既存のマニュアルの不足点が明らかになっていきました。また、災

害時には所属部署の事だけではなく、他部署や地域との連携が不可欠ということに気づかされました。

地域包括ケアがいわれる中で、地域でケアマネがどのような役割を果たすか…。災害時はまさに、地域力が試されるときでしょう。地域の中で働いているという意識を持って、非日常的な訓練（研修）を日常的にやっていくことが大切だと感じています。

食支援でケアマネが出来ること～在宅での脱水予防～

出雲地域介護支援専門員協会 会長 諸 井 望

私はこの度平成29年5月12日に開催されました、島根県介護支援専門員協会総会研修会に参加させて頂きました。その研修会の中の「食支援で介護支援専門員が出来ること」～在宅での脱水対策～についてご報告させて頂きます。

講師である日本摂取嚥下リハビリテーション学会認定士であり医療法人青木内科小児科医院あいの里クリニック次長である森光大先生のご講演を拝聴させて頂きました。

「在宅での脱水対策」と題し、様々な数値の把握、状態の観察を具体的なポイントから丁寧にご説明頂き、生活への早め早めのアプローチにおける予防的重要性について、幅広くご講演を頂きました。

中でも「食べることは、見る+匂い+音+歯ごたえ+のど越し+味であり、“五感で感じる心地よい刺激が大切”である」という言葉に感銘を受けました。

フレイルから生じるサルコペニアなど、早め早めに対策を練り事前に予防を図っていくことは確かに重要ではあります。しかし、栄養確保への工夫に着目することも勿論重要ではありますが、本来「食とは楽しむものもある」といった視点を忘れないこともまた同じ位に重要だと感じました。

出雲地域においても「出雲圏域在宅療養における低栄養改善・食支援対策検討会」が今年度よりスタート致しました。

本会は在宅療養患者の食・口腔ケアにかかる支援について、在宅医療に関わる関係機関が情報交換を行い、今後取り組むべき支援の方向性を確認するとともに、食・口腔ケアにかかる支援体制の構築を目指します。

構成されるメンバーは、保健所を中心に行政、医師会、歯科医師会、リハビリ職能団体、介護支援専門員協会など様々な地域内の多職種合同で構成されています。

私たちもその一員として、今後加速化していくこの流れに一専門職として置いていかれることなく、医療介護の連携のハブとしての役割を明確に、地域の仲間と協力しながら、少しでも地域の住民の皆様のお役に立てるよう努めて参りたいと思います。

この度は貴重な講演の機会を誠にありがとうございました。



講師 森光 大 氏

講演を聞いて思うこと

安来地域介護支援専門員協会 細田 雅子

「認知症の取材と認知症の母を通して思うこと」の演題で、新聞の編集をしておられる飯島氏の介護経験にまつわる講演を聞きました。

同居されているお母さんの様子に少しずつ変化が生じるようになり、認知症の診断を受けた後、亡くなられるまでのお話でした。飯島氏は偶然にも長年にわたり、信濃毎日新聞で認知症についてのコラムを担当しておられ、その知識を活かし在宅介護を選択されました。と言っても、介護は初めてのことであり知識だけではクリアできない場面も多々あったとのことでした。そんな時の相談相手はやはり介護サービスのスタッフやケアマネであったとの事。

私もご利用者様のご家族に「話を聞いてもらえて良かった。また明日から頑張れる」と言っていた事があります。これからも事務的なことだけでなく、ご利用者やご家族の思いに寄り添えるケアマネになれるよう努力していきたいと思いま



講師 飯島 裕一 氏

ます。

認知症予防に関する多くの資料をいただきました。「認知症予防の十か条」「健康老人十二か条」等参考になり、予防の大切さを再度認識できました。今のご利用者様の息子さんや娘さんは団塊の世代の方も多く、今後そのような情報発信はケアマネの役割として大切なことだと感じました。

貴重な講演を聞くことが出来ました。ありがとうございました。

主任介護支援専門員フォローアップ研修に参加して

浜田地域介護支援専門員協会 横田 千草

去る、9月9日（土）いわみーるにて昨年に引き続き山口大学の山根俊恵教授を講師に迎え、『管理と育成に視点を向けたスーパービジョン』をテーマに、主任介護支援専門員フォローアップ研修会が開催されました。非会員の方も含め43名の参加がありました。

午前の講義では対象者や家族をどうとらえ、個々の関係性を読み解き、持っている力をどう引き出していくのか。山根先生の専門分野である精神疾患やひきこもりの事例を通して学びました。



講師 山根 俊恵 氏

引き込まれていたように感じました。

午後からはグループスーパービジョン（以下 GSV）を開催し、その過程を見学しました。事例の外堀から質問を重ねていき、焦点化していく過程、その過程の中でポイントを絞った効果的な質問を重ねていくことで、事例提出者が気づきを得られるという GSV のあり方を学ぶことが出来たように思います。また、私ならどんな質問をするだろうか、進んでいく過程の中でどこにポイントを絞って焦点化していくだろうか。ということを考えながら見学することで、実際に行われている GSV との相違を確認しながら学びを深めることができたように思います。GSVにおいてバイザーの果たす役割は大きく、主任介護支援専門員としてどうバイジーを支援し、GSV の参加者が共に学びを深めることができるのか。自分自身の思考過程や行動パターンを知り、足りないことや苦

手なことを自己覚知し補っていく努力が必要であり、自分自身が『変わる』という意識を持って自己研鑽していかなければならぬと感じました。参加者からも精神疾患やひきこもりの方の支援のポイント、GSV を進めるうえでの主任介護支援専門員としての役割や焦点化していく過程を学ぶことができ、参加して良かったとの声が聞かれました。



主任介護支援専門員フォローアップ研修にバイジーとして参加して

七尾苑 土佐玲子

9月9日、いわみーるにて主任ケアマネフォローアップ研修に参加し、山口大学の山根俊恵先生の講義を受けた。先生の関わっておられる事例を交えながら、向き合うことの大切さを感じる講義で、専門職として勘や経験だけに頼らず、自分の行った支援が意味づけされ言語化できるようにならないといけないと思った。そのためにも自分自身の特性を知ること、利用者や家族の気持ちを聞くだけではなく、聴く（共感）訊く（相手を理解する）力を養うことが必要と感じた。

午後は私がバイジーとなり事例検討を行った。益田市でも昨年から毎月ケア会議を開催しており、事例提供者に焦点を当てたスーパービジョンに取り組んでいる。事例提供者が自ら気づくところまで進めることができ難しく、毎回大変さを感じて

いるところだが、今回私は検討班の皆さんとの質問で徐々に気づきを得ることができ、これまでの支援で良かったのかと悩んでいたことも整理でき、とてもすっきりした気持ちになった。また、山根先生から、このケースの関わり方についての質問をいただいたことで、今後の支援や関わり方への参考にもなった。

私の居宅は2人態勢で、お互いにケースについて相談をしているが、つい先走って事例の解決策や対応策を提案してしまっていた。今回の研修で学んだ内容を踏まえ、お互いに気づきが得られるような質問力を磨き、ケアマネ自らが事例を整理し掘り下げ、今後の支援・関わりを考えていける力が備わる相談をしていきたいと思った。

研修担当からひと言

9月9日(土)に西部会場(いわみーる)で開催した主任ケアマネフォローアップ研修がとても好評だったとの事で、東部会場の申し込みがまだ間に合うかという問い合わせをいくつか頂きました！

東部会場は、10月7日(土)松江いきいきプラザ403研修室で開催致します。

申し込みの締め切りは終了しておりますが、10月5日まで延期致しますので、ご希望の方は、県協会事務局まで申し込みをお願い致します。

皆様のご参加お待ちしております。

島根県介護支援専門員協会

居宅系ケアマネジメント部会 理事

河野 美波子



編集後記

朝夕すっかり涼しさを感じるようになり、ススキの揺れる姿をあちらこちらで目にすることになりました。地球温暖化の影響で四季の移り変わりが薄れつつあると感じながらも、身近に秋の気配を感じられることに少しホッとして、小さな幸せをかみしめています。

当協会では11月の研究大会・中国ブロック研修会に向けて着々と準備を進めています。賛助会員も2社に増え、総会研修等でもお世話になっています。今年度の大会・研修会が会員増につながり、当協会の益々の発展へと広がることを切に願っています。

広報へのご希望・ご要望がありましたら、ご遠慮なく事務局へお申し出ください。

副理事長 三浦 美紀子